

支援に貢献

製岩手アプリ

ゴーイングドットコム スマホ用を無償提供

ソフトウェア開発のゴーイングドットコム（本埠孝佳社長、本社・東京都）は、東日本大震災津波直後から盛岡市へ携帯端末スマートフォン用のアプリ「スマート・アタック」を無償で提供した。このアプリは同市上田の製岩手大構内にある市産学官連携研究センター内の製岩手研究所で開発された「製岩手」のサービス技術。市では沿岸支援の職員派遣に活用した。



盛岡市役所を訪れ、感謝状を受け取る本埠社長（左）

なかつた。震災後に地社より早く保険金給付震被害状況把握の無償提供プログラムを発売した。市に対してはNTTドコモの協力でスマートフォン・アタック用にタブレット型スマホ「ギヤクシータブ」30台の提供を受け、インストラとして提供した。市は官古に派遣した職員からの状況報告、市からの指示・伝達に利用した。現地からの速報で適切な判断や指示が出せたという。外資系保険会社がこれを活用し、震災の保険金支払い調査に活用。他

大学生が民泊ツアー 仮設入居者との交流も
住田町内の民泊体験と初めて開いたもの受け入れ農家などでつくる住田ふるさと体験協議会（紺野昭雄会長）主催の「住田ボランティアモデルツアー」が、9日から1泊2日の日程で行われた。東京などの私立大生が町内に民泊しながら、被災地支援活動や地域づくり活動などの一端にふれた。ツアーは、震災後の観光の方向性を探ろう



気仙杉の草木染め教室を手伝った学生ら＝旧下有住小

が震災支援用に107日、市役所を訪問。谷藤裕明市長から感謝状を受け取った。岩手研究所主任は10

昨秋から仮設住宅中上団地集会所の旧下有住小で定期的に開いている。この日は仮設住宅入居者や町民らが参加し手ぬぐい染めに挑戦。学生らは会場設営をはじめ、杉皮を煮出すためのまきストーブ準備などに汗を流し、自らも創作に加わり参加者

Smart Attack スマートな設備点検を実現!!



- スマートフォンでマニュアルを参照しながらの作業が可能!
- 作業報告をしたその場で報告書が完成するので、お客様との点検結果の確認もスムーズ!
- GPSで時刻、位置の記録が出来るので、作業時間・場所の管理もスマートに!

ゴーイングドットコム開発のアプリ「スマート・アタック」(チラシから)

「Smart Attack」(スマート・アタック)は現場報告書の法人団体向けアプリ・サービス。現場担当者スマホ上で入力して報告書を作成。位置情報付き状況写真と一緒に本社・本部へ送信できる。本社では現場にいる複数の担当者や統一した報告内容

を現状把握でき、次の指示が出せる。同社は2010年7月にサービスを開始。当初災害は想定してい

困難乗り越え、思いぎっしり

地元海と山の幸を一つに漬け込んだ「海鮮漬」が人気を集めていた釜石市の漬物加工グループ「スミシの会」(8人、前川良子会長)。活動拠点の根浜海岸レストハウスが津波で全壊し活動休止を余儀なくされていたが、愛知県豊橋市のNPO法人表浜ネットワーク(田中雄二代表)の支援で、その味を復活させた。5日、同NPOが企画した交流会が橋野ふれあいセンターで開かれ、震災後初の海鮮漬を参加者にお披露目した。

豊橋のNPOが支援

海に関わる活動を展開する同NPOは昨年12月、被災地支援で釜石を訪れた際、海鮮漬の存在を知った。魚食に自分たちが何か協力できないか(田中代表と考えたところ、

「海鮮漬作りの再開を考えたところ、参加した約30人は、田中代表の友人で長野県飯田市在住の画家、山本拓也さん(40)がコンテパステルで似顔絵を描き、プレゼント



大震災私記

116 田村剛一

て、下水道の泥上げ、がれき撤去を早めに行つよう促した。